



たかしま防災クエスト大作戦

～学校と地域の連携による、
子供たちが楽しく学び高める防災意識～

岡山県岡山市 高島・旭竜防災教育グループ

高島・旭竜防災教育グループ（通称：TKB）は、岡山市立高島公民館が中心となり令和5年度に結成されました。中学校区内の小学校の授業で活用できる教材の作成、出前授業の実施、授業で学んだ知識を深める体験イベントの企画や実施を通して、子供たちの防災意識の向上に取り組んでいます。

1 TKB 立ち上げの経緯

岡山市立小学校の4年生社会科授業「災害からみんなを守るために」では、地域の災害リスクについて学ぶ枠組みが用意されています。しかし岡山市立高島小学校では、「教員が地域の詳しい土地勘や歴史を把握しきれていない」という課題や、児童数が1,000人を超える大規模校ゆえに授業の進度を合わせることが難しいという状況がありました。

高島公民館は、平時から同小学校との連携・協働を進めていた経緯もあり、防災教育においてもこれらの課題を踏まえた地域資源活用による授業実現への協力を求められました。

そこで高島公民館が中心となり、地域の防災士や防災学習ボランティアグループ、NPO職員等呼びかけてTKBを立ち上げ、学校と地域が協働した防災教育の実現に向けたプロジェクトをスタートさせました。

2 動画教材の制作：地域の物語と同世代の言葉を届ける

TKBの最初のプロジェクトとして、各学級の授業進度に合わせ、自由に活用できる15分の動画教材を2本制作しました。

- ・第1編「地域の災害リスクを知る」：地域の連合町内会長へのインタビューを通して、地域の土地の変遷や西日本豪雨の記憶を伝えるとともに、警報音クイズなど、日常的に意識しておくべきことを学ぶ内容としました。
- ・第2編「真備地域から学ぶ～自分のできること～」：西日本豪雨で大きな被害を受けた倉敷市真備地区の小・中・高校生が登場し、被災の体験と、その後自らが主体となった防災への取組を紹介する内容としました。

特に同世代の生の言葉は、子供たちに「自分にできることは何か」と問いかけ、主体的に防災を学ぶきっかけとなりました。また、高島学区の高校生が動画のナレーションを務め、地域人材が編集を手掛けるなど、全編を通じて地域ならではの独



動画教材「地域の方に話を聞く」

自教材になりました。

3 対話と体験の展開：学びを「アクション」へ変える

動画を視聴することで高まった防災意識を実践へつなげるため、さらなる仕掛けとして、「地域住民による防災出前授業」と「地域での体験型防災学習イベント」を実施しました。

出前授業では、地域住民や車椅子ユーザーとの対話を通して「自分の身を守る（自助）」だけではなく、「周囲にはサポートを必要とする人がいる（共助）」という視点も深めました。

そして、学校の授業で学んだ知識を地域で実践して深め、再び学校での学びに還元する「学校教育と社会教育の学びの往還」を目指した体験型イベントとして、「たかしま防災クエスト大作戦」を実施しました。このイベントは、子供たちがロールプレイングゲームの勇者となり、消防署や高校、大学サークル、企業、JICA、環境教育団体が工夫を凝らした防災ブース（煙体験、防災着せ替えゲーム、地質学習、起震車、防災ダンスなど）を巡って知識を獲得し、最終ステージで待ち構える「災害モンスター（火災・水害・地震）」が用意するクイズに挑むというものです。

当日は定員を超える多くの子供と保護者が参加し、中高校生ボランティアチーム



高島小学校出前授業



防災クエスト



防災クエストat旭竜小学校

「高島地域づくり隊」のサポートのもと、大盛況のうちに全員がモンスターとのバトルまで完走しました。事後のアンケートでも非常に高い評価を得て、その後も毎年継続して開催しています。

4 成果と未来への広がり

学校で知り、対話で深め、地域イベントで実践する——。TKBが作ったこの学びの循環は、地域全体で子供たちの命と未来を守る、持続可能な防災コミュニティのモデルとして、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。



防災クエスト モンスターバトル